

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892600103
法人名	有限会社ケアサポート加西
事業所名	第二グループホーム銀の鈴
所在地	兵庫県加西市畑町千軒寺46-1
自己評価作成日	令和6年2月9日
評価結果市町村 受理日	令和6年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSオウツチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年3月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な居住環境、あたたかな雰囲気のもと、精神的に安定しゆったりとした生活を置かれています。なじみの仲間やスタッフとの関わり合いの中で、認知症状を穏やかにご入居様が築いて来た人生を受け止め、その人らしく安心して心安らぐ暮らしが出来るよう地域の人も交流しながら継続して生活が出来よう支援していきます。日中は皆の輪の中で過ごし、仲間やスタッフと会話の機会を多く持ちながら過ごして頂き、安心なバリアフリーの設計の住居各室は個室でプライバシーが尊重されています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】平屋で広々とした空間とバリアフリー設計であり事業所環境に恵まれている。また多機能ホームには機械浴が整備されている。
【工夫点】①家庭的な雰囲気や大切に穏やかに本人の気持ちを尊重し過ごしている。同じ建物にある多機能ホームとの交流の機会を持つこともできる。②食事を楽しむことのできる支援では、献立作り、調理、盛り付けなどすべて手作りし提供している。利用者も楽しく食べることで心身の維持や向上につながるよう取り組んでいる点。

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づいた運営					
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で馴染みのある環境の中でひとり一人の状況に合わせた適切な提供と安心と尊敬のある生活を守ることに使命と誇りを持ち支援している。	事業所内の目立つ場所に経営理念を掲げ、その理念を共有し実践に繋げている。		
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域小学生による施設訪問や区長民生委員さんより情報の提供を受け、秋祭りや行事に参加している。	運営推進会議に参加の区長や民政委員より地域の秋祭り等の情報を入力し、秋祭りでは事業所前に屋台も出しこれらの行事に参加し地域の一員として交流している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症により介護支援を必要とする地域の方の受け入れを行ったり、認知症についての理解や支援の方法など、ご家族に伝え生かしてもらおうと地域貢献の一つとして考えている			
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催は家族代表、地域の役員、地域包括、市町村からの参加により、助言を頂き、運営に生かしている。	運営推進会議は家族代表、地域の役員、地域包括、市町村よりの参加で開催し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		会議では事故数やヒヤリハット数の報告は見られない。事故数はヒヤリハット数は、のグラフを作成し、事業所を訪れる方々の目につく場所に掲示し、安全な事業所である活動が望まれます。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターと連携し、サービス上必要な相談や助言を頂いたり実情を伝えたりして協力をお願いしている	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え協力関係を築く取組を実施している。		
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、3か月に一度研修を行っており、身体拘束によって利用者を与える身体的・精神的苦痛を理解し、拘束のないケアを実践している。	全ての職員が介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を学ぶ機会を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は、暴力的な行為や身体的虐待だけではなく、暴言や無視等の心理的虐待、ケアの放棄などであることを研修の機会をもち防止に努めている。	高齢者虐待防止に関し暴力的な行為や身体的虐待に留めず暴言や無視等の心理的虐待に広げ利用者に与える身体的・精神的苦痛等に広げ利用者に与える身体的・精神的苦痛を理解し防止に努めている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人の存在が、本人の権利を守ることになり、制度の活用が必要と認められる利用者と家族に対して情報提供を行い活用できるように支援している。	成年後見人の活用者がいないが成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を利用者と家族と話しあっている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を丁寧に言い、疑問等を納得が得られるように十分に説明させていた	契約の締結時は利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねるなどして納得が得られるように十分に説明し理解・納得を図っている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出された率直な意見などを前向きに生かす姿勢や、体制、サービスの質の確保による、より多くの意見や要望を出してもらっている。	利用者や家族等から意見や要望を出された場合、体制やサービスの質の確保について説明し、多くの意見や要望を出して貰っている		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員各人が、向上心を持てる職場環境を整える事が、利用者の生活の継続性、生活の質の向上に役立たせている。	管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け利用者の生活の質の向上に役立たせている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当の見直しにより、職員がやりがいを持って働けるようにしている。また労働時間や休日の希望を聞き働きやすい環境を作っている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性の認識、質の向上、各自の立場・経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を確保している。事業所内研修やOJTの支援もしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との連絡会による交流に参加し、日ごろの仕事の悩みや地域の情報やサービスに繋がる情報等の意見交換を行っている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	本人に向き合いながら、気持ちを受け止めるよう努め、初期段階での面談やアセスメントにより、少しでも不安が軽減できるよう努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	相談する家族の立場に立って、ご家族の話をしっかりと聞き、家族の思いを理解しながら、思いを受け止め関係を築くことに努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族等の要望をもとに、安心納得しながら利用できる段階的な支援を行うよう工夫している。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし学び支え合う関係作りを重視し、喜怒哀楽をともにし、孤独にならないよう共に過ごす関係を作っていく。			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族を支援する立場であり、家族と疎遠にならないよう、面会の機会を作り、関係性を持つよう支援している。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてこられたご家族・孫・友人との面会が自由に出て、本人がこれまで大切にしてこられた関係が途切れないよう支援を心掛けています。	本人様が地域や地域住民との関係を継続できるよう取り組んでいます。コロナ感染への対策も緩和され月2回までお部屋での面会ができるようになる。また地域の小学生による訪問など地域との接点を持ちながら関係を継続させる支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別レクでの利用者同士がアドバイスされたり声掛け等されていて、良い関係性が出ています。			
22	○関係を断ち切らない取り組み サービスを利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院で退去される方にも入院中の相談やその後の本人の体調や身体状況等の様子を伺うなどの対応を行っている。			

自己 第三者	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の申し送りやミーティングの場を持ち、思いや希望、意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意向の把握が難しい方には、ご家族に情報を得るようになりその内容は経過記録に記載し職員間で共有している。			
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が過ごしてこられた中での思いを大切に支援するよう情報を職員間で共有し意識しながらアセスメント行っている。				
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との話や介護職員からの聞き取りをこまめに行い、現状を把握するように努めている				
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングを行い、本人の意向や家族の思いを反映した介護計画を作成している。	ご本人や家族の意向を聞き介護計画に反映するようになっている。設定した期間での見直しはもちろん、モニタリングに基づき介護計画を見直している。3か月に1回は、生活状況や身体状況などカンファレンスを開催しサービス内容など意見交換を行う。			
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近に支える職員が知り得たケアや気づきを、毎日のミーティングで情報共有を行い介護計画の見直しにつなげている				
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人の人を支えるために、多様なニーズに対して、柔軟な支援が必要な時、併設の小規模多機能の協力を得ながらニーズに合わせた支援ができるようにしている				

自己 三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療や訪問看護、訪問美容を利用している。民生委員や区長さんより情報をいただき、地域行事に参加している。			
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、協力医療機関のかかりつけ医が定期的に往診している。往診の際には、些細なことでも相談できる状況にある。急変時には、24時間体制で指示を受け対応している。また個々のかかりつけ医の受診、指示を受けての緊急時の受診等、適切な医療が受けられるよう支援している	一人ひとりの利用前の受診経過、現在の受診の希望を把握し同意を得ている。2週間に1回かかりつけ医の往診を受け。夜間急変時は、医師の携帯電話に連絡が取れる。また訪問看護師の定期訪問も計画されており、医師と看護師連携が図れている。異変に気付いた時点の早い段階で看護師に相談できる体制が整っている。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師の定期訪問による健康チェックを受けている。その際、状況報告や生活の中での気になることへの相談も行っている。また緊急時には、オンラインでの相談を行い医療的な助言をもらっている			
32 (15)	○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時の情報提供や早期退院に向け、早い段階から状態把握のための情報交換、オンラインでのカンファレンス参加等の連携を行っている	入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には情報提供のファイルを利用者個々に作成し医療機関に提供している。本人への日頃の支援状況など記載している。また、家族とともに回復状況も情報交換しながら、病院開催のカンファレンスにも参加している。		
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化、看取りに対しての意向確認を行い、状態に応じて何度か話し合いを重ねながら、必要に応じて医療関係者も含めたチームで支援が行えるよう取り組んでいる	本人様やご家族の意向を踏まえ、医師や看護師と連携をとり取り組んでいる。契約時には、「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。状態変化のたびにご家族等の意向をその都度確認しながら、安心して納得した最期を迎えられるようにしている		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えた初期対応マニュアルに沿って適切に行えるよう訓練を行っている。事故発生時に対応できる取り組みが出来ている。			
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害支援要請網を作成し、災害の際には地域の方の協力を頂き速やかに安全に避難できるように2回避難訓練を行っている。また地域の代表の方にも可能な限り参加していただけるよう依頼している	災害支援要請網を作成して災害時に地域の方の協力を得て安全避難できるように2回避難訓練を実施している。		

自己評価	第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
自己	36	(18) 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは人格を尊重し、一人ひとりの方の思いに沿った支援を心がけることで利用者の誇りを傷つけることなく、プライバシーに配慮した対応を行っている	年長者としての敬意を払い、日々の利用者への声かけや対応について配慮している。令和5年6月プライバシー保護の研修を行っている。利用者の誇りを傷つけたコミュニケーションになつてはいないか食事介助で心掛けることなど職員間で取り組んでいる。		
	37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	運営理念に沿って、依頼形と穏やかな口調で伝えることで、自己決定できるよう支援している			
	38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごせるような雰囲気を作り、活動参加も強制するのではなく、参加の有無もその都度お聞きしながら思い思いに過ごしていただけるように支援している			
	39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を選んでほしいたり、入浴の前と一緒に服を選んでほしいたりしている。また認知症でうまく身支度できない時は一つ一つ声掛けしながら一緒に行っている			
	40	(19) 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材を取り入れた、手作りの食事にこだわり、調理の臭いや暖かい食事は食の楽しみにつながっています。	食事は利用者にとって暮らしの中で重要な位置と考え取り組んでいる。事業所で作成した献立をもとにすべて手作りで提供し、家庭的な雰囲気や調理の音や匂いなど五感刺激をとても大切にしている。行事食ではお正月はおせち料理、ひな祭りは巻きずしなど食への関心を引き起こす工夫をしている。		
	41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はきちんと把握し、体重の増減、食事形態、介助の方法など、一人ひとりの様子を把握しながら支援を行っている。			
	42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人のカに合った口腔ケアをしている	個々の状況をそれぞれ把握し、毎食後の口腔ケアには自立の方にも必ず見守りと声掛けを行い、適切な形での支援を行っている。口の中の変化や訴えを聞き、状況により指定協力歯科医に往診依頼を行い診察して頂いている。また週一回のチェック項目の記入や、歯科Drの助言を参考にし口腔ケアを行っている。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ日中はトイレでの排泄が行えるよう支援を行っている。またさりげなく声掛けや汚染の確認を行いながら不快に過ごされる時間を少なくするように努めている	一人ひとりのサインを職員が把握するために申し送りシートおよび排泄チェック表を各フロアに設置している。またあからさまな誘導ではなく、さりげない支援を心掛けている。身体機能に応じて手を差し伸べ、トイレで排泄できるよう支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分摂取量を配慮し、また運動促し、自然に排便が出来るよう工夫をしている。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を奨めよう。職員との都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援を行っている	利用者に無理強いすることなく、ひとり一人の意向を第一にくつろいだ気分に入浴できるように心がけている。	利用者のその日の希望に沿いながら週2回入浴していた。入浴を嫌がる場合も無理強いせず、順番を交えたり、曜日を変更するなど一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて柔軟に対応している。重度化にともない二人体制での介助が行われており慣れた場での入浴していただくためシャワーキヤリを準備されている。多機能ホームには機械浴がいろいろでも利用できる環境は整っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間にお部屋に戻っていただけようようにしており、思い思いの時間に就寝・昼寝ができるよう支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局の薬剤師から薬の説明、副作用や注意すべき点について指導してもらい理解できるよう努めている。服薬の支援については、マニュアルでの取り決め通りに介助を行うよう統一し誤薬事故を防ぐ取り組みを行っている。処方薬の変更があった際には、特に注意を払い服用後の状況を把握し、医療と連携するようになっている。また、長期間服用している場合において日常生活に変化がないかの観察も行っている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと等の把握を行い、役割につなげていけるよう支援を行っている。季節感を味わっていただくため、毎月のカレンダー、壁面の飾り制作は定着し入居者の皆さんにも喜んでいただいている		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外出や外泊、外食なども希望に応じて行っている。また地域の神社への初詣や、花見など出かけることで少しでも季節感を味わい気分転換を過ごしていただけるよう支援を行っている	車いす使用の方も多くおられますが、少しでも戸外に出かけられるよう支援している。車中ボイスではお花見にでかけ記念写真を撮ったり、近くの神社へお参りに出かけるなどしている。もう少し暖かくなったら外出の機会を積極的に設ける予定です。	

自己 番号	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に添じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを回避するため、現金の持参を控えて頂いているが、必要な物は本人の希望を聞いて購入している。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙のやり取りをすることが難しくなってきたり、希望があれば職員付添のもとで電話して頂いたり、送られてきた手紙を一緒に読むなどの支援を行っている			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な住環境を重視し、四季の鉢植えやプランター野菜をリビングから見てもらい季節を感じてもらったり、音楽をかけ居心地良く過ごせるよう工夫している。毎月カレンダー作りや壁面の飾り制作で季節感を味わっていただくよう工夫している	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで日中過ごされることが多いが、個々に気の合う入居者同士での談話やレクリエーションへの参加をされたりしている。少し休みたい時にはいつでもお部屋に戻れる環境を整えている			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好きなものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、本人が大切にされていたものや写真・置物などを持ち込んで頂くことで居心地よく過ごしていただけるようにしている	利用者の個室はほとんどの方が今までに自宅で使用していた使い慣れたものや写真等を持ち込み本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症があっても、生活しやすいようにトイレや居室に目印をつけたり、動作しやすい環境を整えることで安全に自立した生活ができるように支援している			